

令和3年度

運 営 に 関 す る 計 画  
( 最 終 評 価 )

大阪市立工芸高等学校

令和4年3月

## 学校教育目標

本校の教育の特色であるデザイン及び芸術系の専門性の進展をはかる教育を通して、豊かな感性と人権意識の醸成をめざした教育を目標とする。また、基本的な生活習慣を確立し、生涯にわたって自己の心身の健康を管理する能力を獲得するとともに、自己実現をするための基礎的・基本的な知識や技能に加え、課題の解決に向けて知識や技能を活用する力を育成する。

## 1 学校運営の中期目標

## 現状と課題

本校は、デザイン・造形を総合的に学ぶ全国で唯一の専門高校（デザイン系5学科と美術科）で、「真実一路」「良知を以って己を磨き、敬愛を以って人に接し、熱意を以って事に当る」を教育信条にデザイン・造形教育を推進し、時代に即応したデザイナーや技術者を育成するとともに、美術、デザイン系大学への進学に向けた実力の養成に努めている。

また、交通の利便性の良い阿倍野区文の里に立地し、本市指定有形文化財にも指定されている本館をはじめ、卒業生寄贈による彫刻を配した中庭など、デザイン・造形・美術の専門高校として優れた空間を有している。

本校では専門性をより深化させるため、これまで校内での学習活動に加え、校外における施設見学や高大連携授業など、生徒の興味・関心を高め、専門的な技術を向上させるための取り組みを行ってきた。また、以前から学習指導要領改訂の要点である「言語教育の充実」について積極的な取り組みを進めており、学習成果発表や作品発表、合評を通じ、コミュニケーション力・自己表現力とともに、社会性をも兼ね備えた人材の育成に努めている。このような取り組みが実を結び、本校では80%の生徒が大学等の高等教育機関に進学している。

今後はさらなる飛躍をめざし、全ての科目について主体的に学ぶ意識を育てるため、教員一人ひとりが自己研鑽し、専門性・指導力を高めるための取り組みを行う。

一方で、既存の施設・設備においては、学年単位の学習や学校説明会などが効率よく実施できる多目的室をはじめ、ICT環境が整備されておらず、その対応に苦慮しているところである。令和3年度に文部科学省がスマート専門高校の実現に向け、デジタル化に対応した機器が整備される。生徒の興味・関心をさらに引き出し、知識・技術の向上をはかるには、デザイン・造形・美術に関する専門高校独自の教育環境のさらなる整備が不可欠であると考えられる。

## 中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- (1) 学校生活をとおして生徒の規範意識を高めるとともに、基本的な生活習慣を身につけさせ、時間を守ることや身だしなみに重点をおいた指導を強化して推進する。さらに、何ごとにも自主的に取り組む態度を育てる。（マネジメント改革関連）
- (2) 自他の違いを認め合い、お互いに尊重しあうことができる感性の醸成に努めるとともに、教育的支援体制を構築し、インクルーシブ教育の推進及び、いじめや差別事象の解消に組織的に対応することで、いじめ・差別のない学校づくりに努める。（マネジメント改革関連）
- (3) 学校の教育活動についてわかりやすく発信し、学校PRを徹底する。また、他校種との連携や地域行事等への参画を通じて、教育内容を公開して、認知度を高める取り組みに努め、開かれた学校づくりを推進する。（ガバナンス改革関連）
- (4) 地球環境への配慮や持続可能な社会づくりに取り組む意識を育むために、教職員、生徒が一体となって環境教育を推進する。（カリキュラム改革関連）
- (5) 産・官・学と連携した取り組みを推進して、3年間で計画的に職場や地域社会で多様な人々と協働していくために必要な社会人基礎力を育成し、生徒のキャリア意識を高める進路指導に取り組む。（カリキュラム改革関連）

**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

- (1) 主体的、対話的で深い学びにより、学習習慣の形成や学習意欲の向上を図り、学力をより一層定着させるとともに、自ら判断する主体性を育むための教育を実践する。(カリキュラム改革関連)
- (2) 教育活動の充実を推進するために、研究授業や研修会を実施し、教員の資質・能力を向上させ確かな指導力を身につける。(ガバナンス改革関連)
- (3) 教育のユニバーサルデザイン化をめざし、ICT機器等を活用したわかりやすい授業を実践し、生徒の自己実現をサポートするための体制づくりと環境整備を推進する。(カリキュラム改革関連)
- (4) 社会教育施設を活用して、「探求心」や「好奇心」を高めさせて「創造力」を豊かにさせる。(カリキュラム改革関連)
- (5) グローバル化に対応できる力を身につけさせるために英語教育の充実と国際理解教育を推進する。(カリキュラム改革関連)
- (6) 家庭と連携して、生徒一人ひとりが自己の健康に関心を持ち、心身ともに健康な生活が送れるように健康教育活動を推進する。(学校サポート改革関連)
- (7) 生徒一人ひとりが主体的、対話的で深い学びに取り組み、確かな学力と技能の育成をはかり、自己実現の達成につなげるキャリア教育を推進する。(カリキュラム改革関連)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

**【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】**

- (1) 生徒一人ひとりの指導について、生活指導部、学年、学科が連携して取り組むための体制を確立し、生徒指導にあたる。  
[指標] 遅刻者数のさらなる減少  
身だしなみ指導者数の減少  
交通安全指導の実施  
スマートフォンの適切な使用の啓発
- (2) 生徒会活動や部活動をとおして自主性と責任感を持った行動ができるように指導する。  
[指標] 生徒会役員を中心とした学校行事を実施  
体験入部により1年生の部活動への加入率を増加
- (3) 様々な危険から安全を確保する安全教育を推進し、災害に適切に対応する基礎的な能力を培い、災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができるようにする。  
[指標] 防災避難訓練の実施
- (4) 生徒に対して人権尊重の感覚の育成を図り、自他の違いを認め合い、お互いに尊重し合うことができる感性の醸成に努める。  
[指標] 生徒人権学習会の開催、人権講話の開催  
人権に関する広報誌の発行、教職員人権研修会  
校外人権研修会への参加
- (5) 健康教育部・特別支援委員会を中心に学校全体で組織的にインクルーシブ教育に取り組む。  
[指標] 高校生活支援カードを活用した実態把握を実施  
担任を通じて保護者との連携を深める機会  
特別支援委員会等の開催
- (6) 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うために、環境教育の推進に努める。  
[指標] 校内美化の推進  
ごみの分別収集の推進
- (7) 自己実現を図るためにキャリア意識を醸成する取り組みを企画し、自己による課題の解決や知識・技能を活用し、グローバルな視野と社会に貢献する力を育成する。  
[指標] 各種コンクールなどへの出展  
海外イタリア研修の実施  
公募制海外研修の応募へのサポート
- (8) 書籍や資料などの収蔵物のより充実をはかるとともに生徒の学習意欲の向上を図れるようにラーニングコモンズの機能を持たせた施設設備の整備に努める。  
[指標] 来館・利用者数 前年比増加

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- (1) 自主学习アンケートを実施し、生徒自身に自らの学習の取り組みを客観的に把握させ、自主的に学習に取り組めるように支援する。  
[指標] 自宅学習時間 前年比増加  
生徒が自主的に学習に取り組める教育環境の整備  
自主的、対話的で深い学びを実現するための研修に参加
- (2) ICT活用力や情報教育指導力の向上を図るため、校内設備の整備および教員研修を行う。  
[指標] ICT機器が活用できる環境整備の推進  
教職員の情報研修を開催
- (3) 各教科の授業で学習成果発表や作品発表・合評等に取り組み、コミュニケーション力、自己表現力に加え、社会性を兼ね備えた人材の育成に努める。  
[指標] 合評会の開催
- (4) 特別な配慮や支援を要する生徒について、教職員で情報共有を深め、個々の生徒に応じた合理的配慮を実現する。  
[指標] ケース会議の開催  
個別の支援計画、個別の指導計画の作成  
インクルーシブ教育及び教育のユニバーサルデザイン化の実現の為の教員研修を実施
- (5) 健康な生活習慣の確立のために、各種検診で再受診が必要な生徒への受診勧告を迅速に行い、担任との連携を密にした粘り強い受診指導を実施する。  
[指標] 再受診率の前年比増
- (6) 校内の事故防止対策の一環として熱中症予防対策並びに応急処置講習を実施する。また、薬物乱用防止講習を開催し、生徒の意識啓発に努める。  
[指標] 熱中症予防対策講座の開催  
応急処置講習の開催  
薬物乱用防止講習の開催
- (7) 本校の教育の特色であるデザイン及び芸術の専門性を深化させるための教育をととし、造形、デザイン分野への進路を希望する生徒を支援するとともに、全生徒が自己実現できる進路指導に努める。  
[指標] デッサンコンクールの開催  
外部教育機関等を活用した進路指導の取組
- (8) 各学科におけるアドミッションポリシーから、めざすべき生徒像の育成を行うために取り組むべき学習内容の構築と研究に努め、先鋭的な取り組みを実現させる。  
[指標] めざすべき生徒像の育成を図るための特色ある取り組みの実施  
外部教育機関(幼・小・中・高・大等)・企業・社会教育施設等と連携した取り組みの開催

3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校・家庭・地域)の実現】

(1) 服装頭髪指導や遅刻指導等の取り組みは生活指導部が中心となって学年・学科と連携することによって成果があらわれてきている。また、昨年度から検査時以外でも指導をする教員が増え、身だしなみについて意識を向上させることができている。昨年度から指導記録簿を作成し継続かつ組織的な指導を行うこと、より多くの教員からの注意喚起によって生徒の規範意識をより高めるなど指導体制も整ってきている。今後はさらに、風紀通信や生徒会通信を活用し家庭との連携を密にして以前から課題である遅刻を減らすことについて重点的取組みたい。

(2) コロナ禍で制限のある中での文化祭であったが、生徒会役員を中心に企画・運営に取り組み、成功させることができた。来年度以降も生徒会を中心とした生徒主体の取り組みを実現してほしい。

(3) 本年度は5月に防災学習、12月に避難訓練と防災学習を実施した。避難訓練においては、消防署員の指導のもと消火訓練に取り組み、教職員や生徒の防災や減災に対する意識も高まったように思われる。引き続き実施していきたい。

(4) 人権講話では外部講師から「ぬくもりを感じて」と題する講演を行った。実施後の生徒アンケートの結果も「講演が良かった」と答えた生徒が9割を超えたことから、多くの生徒が同和問題について理解を深めたと思われる。

(5) 特別支援コーディネーターが中心となって、ケース会議を開催し支援を要する生徒の情報共有を図るとともに、必要となる合理的配慮についての提案を検討し共有することができた。保護者と支援について連携を図り、生徒や保護者のニーズを的確につかむことが重要である。

(6) オープンキャンパス等の開催日に合わせて大清掃を実施し、校内美化の推進として芸術科と連携した校内美化推進ポスターを生徒に作成させ校内美化寄与する姿勢と態度を養った。今後さらに環境教育を推進し、教職員と生徒にごみの分別収集についての意識をさらに高めていきたい。

(7) 今年度も、各学科で様々なコンクールへの出展に取り組み多く作品を出展することができた。多種多様な作品を意欲的に制作することは、デザイン・造形・美術系の大学への進学をめざす本校生徒にとって技能を高めるためにも必要である。今年度は全国規模のコンクールで最優秀賞をはじめ多くの入賞があり、生徒の進路決定の一助となっている。

イタリア研修旅行は今年度もコロナ禍のため次年度に延期となったが、代替として実施したリモートツアーには一般市民の方も参加し、ミラノの姉妹校の生徒、教員との交流を継続することができた。現在、次年度の研修旅行実施に向け計画を進めている。

(8) 平成30年度からの取り組みを継続し、図書館のソフト・ハード両面においてコロナ禍の制約の中でできる限り取組み、充実した環境を実現することができている。今年度も蔵書の充実と生徒の活用や読書週間の向上をめざす取組みと読書の場所としての提供だけではなく、自主学习空間の提供も推進し、考査前・考査中の利用を促す取組みを行った。引き続きアクティブな図書館をめざし、図書館機能の向上に取り組んでほしい。

#### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

(1) 今年度も生徒が自らの学習の取組みや時間管理等について考えさせるため、3学期に学習状況アンケートを実施した。また9月に新型コロナウイルス感染不安から登校できない生徒への配慮として学校ホームページにて授業内容を確認できるように生徒の自学自習が効率的に行えるよう配慮した。

(2) 新任・2年目・5年目・中堅教員研修において研究授業や研究発表等を行い、教員間での指導力向上や、デジタル教材を活用した授業についての研究を進めた。加えて府移管に伴うICT機器入れ替えによる大阪府の校務処理システムでの指導要録、成績処理についての準備を組織的に行っている。また、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により公開授業を実施することができなかったが、次年度は可能な限り実施したい。

(3) 各教科・学科において、専門科目の主要單元ごとに発表する機会を設けており、互いの意見を聞き、自己表現力を高めることにつなげた。また、各種コンクールに出品した生徒作品が、全国レベルの様々な賞で上位入賞し、外部から高い評価を得た。

(4) 支援を要する生徒について、ケース会議を学年ごとに学期に一度、突発的な対応については即時にケース会議を開き、リアルタイムでの情報交換と共有から、生徒の動きに合わせた対応に努めた。様々な発達の特性のある多様な生徒が増えていることから、高校での合理的配慮等に関する教員への研修を7月に実施し理解を高めた。また、年々増加する配慮が必要な生徒に対し、学級担任との連携を密にすることによって対応できている。

(5) 定期健康診断の結果による受診勧告を3度にわたり行ったが、受診率の向上は図れなかった。コロナ禍の影響もあるが来年度以降の課題と考えている。

(6) 生徒保健委員による「ほけんだより」を発行し健康意識の向上が図れた。薬物乱用防止講習、アフターピルについて講習会を実施し、薬物への注意喚起を行った。

(7) 今年度もデッサンコンクールを3回開催し、生徒の実技スキル習得の機会を設けた。進学面接指導については各科と協力し行い、総合型、学校推薦型の入試である国公立大学の合格者が増加した。

(8) 学科ごとに様々な大学・専門学校や企業との連携を図り、校内だけでは体験できない様々な学びを経験することで、最新の知識と技術、社会性を身に着けることができた。また、各学科で様々なコンテストやコンクールへ積極的に取り組み、出品させることで生徒たちの作品制作への意欲の向上が見られた。今年度は、工業5科に「スマート専門高校」の実現としてデジタル化対応産業教育装置の整備が行われ、令和4年度からの新カリキュラムに沿った各科の特色を活かす授業展開を現在各科で検討している。加えて美術科には校長経営戦略支援予算が配当され、長年の課題であった作品発表やプレゼンテーションに使用するPC機器の整備が図れた。来年度から最新の実習機器を使用した授業が可能になった。

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが、目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</b></p> <p>(1) 生徒一人ひとりの指導について、生活指導部、学年、学科が連携して取り組むための体制を確立し、生徒指導にあたる。</p> <p>(2) 生徒会活動や部活動をとおして自主性と責任感を持った行動ができるように指導する。</p> <p>(3) 様々な危険から安全を確保する安全教育を推進し、災害に適切に対応する基礎的な能力を培い、災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができるようにする。</p> <p>(4) 生徒に対して人権尊重の感覚の育成を図り、自他の違いを認め合い、お互いに尊重し合うことができる感性の醸成に努める。</p> <p>(5) 健康教育部・特別支援委員会を中心に学校全体で組織的にインクルーシブ教育に取り組む。</p> <p>(6) 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うために、環境教育の推進に努める。</p> <p>(7) 自己実現を図るためにキャリア意識を醸成する取り組みを企画し、自己による課題の解決や知識・技能を活用し、グローバルな視野と社会に貢献する力を育成する。</p> <p>(8) 書籍や資料などの収集物のより充実をはかるとともに生徒の学習意欲の向上を図れるようラーニングコモンズの機能を持たせた施設設備の整備に努める。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>生徒一人ひとりの身だしなみや生活習慣に対し、生活指導部と学年、学科が連携して指導を行い規範意識の高揚に努める。生活指導部に学年担当を置き、学年・学科が連携するとともに家庭との連携を密にして十分に情報を共有しながら指導に当たる。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「服装頭髪検査」を毎学期1回以上実施する。</li> <li>・日常から頭髪違反をしないように注意喚起をするとともに、違反生徒発見後すみやかに担任・学科と連携して指導にあたる。頭髪違反生徒の改善は7日以内に完了するよう努める。</li> <li>・ブレザー・ネクタイの着用（冬服時）、校章・科章を付ける、スカートを正しく着る、これらの正しい着用割合を95%以上（前年度 校章・科章着用率95.4%、ネクタイ着用率99.6%、スカートの正しい着用率99.0%）にする。</li> </ul>	
<p>取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>生徒会通信や風紀通信を月1回発行し、生徒自身が基本的な生活習慣を確立できるよう啓発活動をおこなう。また生活指導部と学年・学科が生徒の登校状況を共有し、基本的な生活習慣の確立に向けた指導に努める。生徒の指導に当たっては、担任や家庭との連絡を密にし、生活習慣の改善に向けた協力体制を構築する。また、体育祭・文化祭などの学校行事や部同好会活動・委員会活動を通して、社会性、協調性、自主性を養えるよう努める。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣の乱れが原因の遅刻について、遅刻者の減少をめざし、学年、学科と生活指導部が連携して指導を行い、年間の遅刻件数3,000件（前年度3,350件）を下回るよう努める。</li> <li>・部同好会の加入率・活動率の向上に努める。</li> </ul>	
<p>取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>生活指導部会や連絡会で生徒一人ひとりの状況を情報共有し、生徒一人ひとりの状況に応じて指導にあたる。</p>	B

<p>指標 生徒指導の状況について情報を共有し、連携しながら指導にあたるために、生活指導部会を週に1回、生活指導部と学年との連絡会を学期に1回以上（前年度2回）実施する。</p>	
<p>取組内容④【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>全校生徒を対象とした交通安全講習会の実施や集会時の講話などを通じて、交通安全に対する意識が高まるように指導する。自転車損害賠償保険への加入はもちろん、生徒自身の危機管理意識の醸成に努める。特に雨天時のレインコートの着用を徹底する。SNS等におけるトラブルに巻き込まれないよう、集会時の講話などを通じてスマートフォンの適切な使用について考えさせ、安全に対する意識が高まるよう指導する。</p>	B
<p>指標 ・生徒の安全意識の向上と事故の発生ゼロをめざす。（昨年度6件）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雨天時のレインコート着用を徹底する。</li> <li>・SNS等における問題ゼロをめざす。</li> </ul>	
<p>取組内容⑤【施策1 安全で安心できる学校、教育機関の実現】</p> <p>生徒一人ひとりがいろいろな災害に対応できるための知識を身につけさせ、状況に応じて自らが適切な判断をし、安全な行動が行えるようにする。避難訓練はもとより、各種情報の提供に努める。防災・減災教育を推進する。</p>	B
<p>指標 ・防災避難訓練や安全教育、講話等を2回以上実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災避難訓練の避難開始から点呼完了まで、今年度も10分以内をめざす。</li> </ul>	
<p>取組内容⑥【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>全学年を対象に人権学習会を実施し、人権を尊重する意識の醸成に努める。</p>	A
<p>指標 人権学習会の事後アンケートで、「よかった」の回答が80%以上になることをめざす。</p>	
<p>取組内容⑦【施策2 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>支援委員会と健康教育部を中心に担任及び教科担当と共に配慮や支援を要する生徒の実態把握と情報共有を行うための体制を確立し、保護者との連携強化を図る。高校生活支援カード等により、様々な特性を持った生徒の情報収集と実態把握から要配慮生徒一覧を作成し、適切な配慮や支援の決定に反映する。また、懇談等を通じ早い段階で本人や保護者のニーズを把握し、継続的な連携を図る。気づきシートを活用し授業や部活動などの観察から多面的な情報収集に努め、要配慮生徒一覧を更新して個別の状況を学校全体で十分に情報共有する。</p>	B
<p>指標 ・高校生活支援カードを活用した実態把握を実施し、4月に要配慮生徒一覧を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・懇談等を通じ継続的に保護者との連携を図りながら支援委員会等を5回程度（前年度4回）開催し、要配慮生徒一覧を6月と10月に更新する。</li> </ul>	
<p>取組内容⑧【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内環境を快適に保つため、ゴミの分別や校内美化の意識を高める。</li> <li>・芸術科と協力し、「校内美化ポスター」の作成に取り組む。（本年度、試行）</li> <li>・各クラスの保健委員が生徒目線で清掃状況と危険個所を巡視するといった取り組み「生徒安全パトロール」を定期的実施する。</li> </ul>	B
<p>指標 生徒安全パトロールを年間2回以上実施する。</p>	
<p>取組内容⑨【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>3年生の生徒・保護者を対象に大学・短大進学説明会や就職希望者説明会に参加を呼びかけ、進路を考える上で情報を共有する機会を設ける。また、PTAの委員会活動と連携し、大学見学会の実施に協力することで、より多くの進学情報を収集、活用できるようにする。参加者へのアンケートを実施し、改善に努める。全学年に「進路の手引き2021」を、保護者向けに進路情報誌を配付するなど、生徒と進路について話し合うきっかけになるように情報提供をする。</p>	B
<p>指標 進学説明会や就職説明会への参加人数が3年生全体の30%以上をめざす。</p>	

<p>取組内容⑩【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>オープンキャンパスの実施や、学校説明会・出前授業の積極的参加やホームページの充実などを通して本校の魅力を外部に発信する。年度末の工芸高校展では専門科と協力し、生徒作品の発表をとおして小・中学生やその保護者、近隣住民に対して工芸高校の高度な専門性をアピールする。憧れの学校、行きたい学校になるような展覧会を目指す。また、オープンキャンパスや工芸高校展等の広報活動実施時にアンケートを行い、改善に努める。</p> <p>国際交流事業として、コロナ禍においても参加が可能であるリモートで行う「リモート・イタリアンツアー」を実施し、今後イタリア研修旅行が実施可能になった際に向けて、姉妹校のブレラ国立芸術高等学校との交流と、イタリアに関する事前学習と準備をする。また、オンラインの特性を生かして、本校生徒だけでなく地域の方々にも生涯学習の一環として利用してもらい、開かれた学校としての認知を深めてもらう。</p> <p>指標 イベント参加者のアンケートで、「参考になった」の回答数を85%以上にする。</p>	B
<p>取組内容⑪【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>図書館では、美術・デザイン・造形や映像分野等の授業課題に役立つ資料や書籍をより充実させ授業や自主学習に活用させる。生徒の専門的ニーズに応じた書籍としてアニメやマンガ等を積極的に購入する。文化系クラブとの連携を推進する。生徒図書委員会による広報活動として展示ケースや図書館たよりの担当生徒を指導する。学校HPの図書館の紹介等による広報活動を促進する。寄贈図書を活用する。図書館主催行事（オーサービジット・図書館キャンペーン・開こう好奇心の扉）により図書館の活性化をはかる。生徒対象コンクールに応募する。前年より引き続き感染症対策を徹底し、本の消毒、ソーシャルディスタンス、入室制限をおこなう。</p> <p>指標 ・生徒利用者数2,500人以上（前年度2,250人）、貸出冊数2,000冊以上、授業での図書館利用度について前年度より増加をめざす。 ・読書感想画40点以上（前年度40点）と読書感想文の積極的な出展をめざす。</p>	B
<p>目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>(年度末反省)</p> <p>取組内容①(生指)</p> <p>「服装頭髪検査」を毎学期に実施した。服装頭髪検査時以外にも随時指導を行った。特に頭髪についてはそれぞれの生徒について指導状況や履歴を教員が共有できるように指導記録簿を作成した。指導生徒数は95名で昨年度(104名)より減少している。学年ごとの内訳は頭髪違反が1年生5件、2年生14件、3年生14件、服装違反が1年生32件、2年生19件、3年生11件であった。改善期間は</p> <p>ほぼ7日以内に完了したが、一部の生徒については指導に時間を要した。今年度よりツーブロック禁止を校則から外すことになったが、極端なツーブロックに関しては、不自然な髪型として指導した。ネクタイ着用率(冬服時)校章・科章に関しては、95%以上の目標は達成できた。(校章・科章着用率95.4%、ネクタイ着用率97.3%、スカートの正しい着用率98.4%)</p> <p>取組内容②(生指)</p> <p>風紀通信や生徒会通信を月に1度以上発行し、正しい服装の着用や交通ルールの遵守を促した。2月末日までの遅刻件数(玄関指導室調べ)は2867件であり(昨年度は3182件)、昨年度より人数は若干減少したが、まだまだ多い。来年度もそれぞれの生徒と向き合い、ねばり強く指導を続けたい。また、より早い段階から学級担任を通じて家庭と連絡を密にとり、学級担任及び科・生活指導部との連携を強化していきたい。</p> <p>学校行事や部同好会活動・委員会活動に関しては、今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い大幅な変更を余儀なくされた。制限がある中、工夫して行うことができた。来年度もまだまだ影響が予想されるが、学校行事や部同好会活動・委員会活動を工夫しながら活発に行い、生徒の協調性や自主性を養えるよう指導していく。(部同好会活動率R1 56.57%→R2 47.86%→R3 45.8%)</p> <p>取組内容③(生指)</p> <p>週に1度の生活指導部会において、各科の生活指導部員を通して生徒の情報共有を図った。生活指導部と担任団との連絡会は実施できなかったが、個別に連絡をとりあった。来年度も生活指導部・学科・学年・担任が連携し家庭との連絡や情報共有を図り、生徒の指導を行いたい。</p>	



#### 取組内容④（生指）

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、各教室においてオンラインによる交通安全講話及び交通安全テストの実施により交通安全講習を行った。交通事故が4件起きた。来年度は交通安全指導に力を入れ、交通事故ゼロをめざしたい。

雨天時のレインコート着用状況を門でチェックした結果、傘さし運転がゼロであった。次年度も引き続き指導していきたい。

SNS関係では、1, 2年生対象にスマホ・ケータイ安全講習会を実施した。校内で撮影した動画をSNSにあげた事案が3件発生した。来年度は啓発指導を徹底しトラブルゼロをめざし指導していく。

#### 取組内容⑤（教務）

今年度は、5月予定の防災避難訓練が雨天で中止となり、避難経路の確認と防災学習に変更した。また、9月の大阪880万人訓練が大雨警報の発表により、中止となったことで、防災学習を実施することができなかったが、11月26日に防災避難訓練を実施し、火災時の避難訓練を行い、消防署の方から災害時に安全な行動を取り、災害に対応できるように講話をしていただいた。今後も全校生徒が安全な行動を取り、災害に対応できるよう安全教育を進めていく。

#### 取組内容⑥（人権）

全学年対象の人権学習会は、新型コロナウイルス感染症の感染対策の一つとして、1年生はリモートにて講演会を実施した。実施後のアンケートの結果、「良かった」の回答が91%であり、目標を達成することができた。

#### 取組内容⑦（支援）

合格者説明会や入学式等で保護者からの相談や高校生活支援カードの記述内容から実態把握をし、4月に要配慮生徒一覧を作成した。支援委員会を5回開催し、学級担任、教科担当等と情報共有を行い要配慮生徒一覧の更新を6月と10月に行った。懇談等を行い新しい情報はその都度要配慮生徒一覧に挙げることで教職員全体でも情報共有した。

#### 取組内容⑧（健教）

- ・ゴミの分別や校内美化の意識は高まっているように感じます。
- ・校内環境美化ポスターは評判も良く、来年度も継続していきたい。
- ・生徒自身による校内安全パトロールにより、清掃の徹底、危険個所に気付けた。

#### 取組内容⑨（進路）

「進路の手引2021」を全学年に、各学年に進路に関する情報誌を渡した。新型コロナウイルス感染拡大の影響で6月に延期して実施した私立大学・短大進学説明会の参加者は349名で、2・3年生併せて44%であった。

#### 取組内容⑩（総務）

コロナ禍ではあるが万全な感染対策のもとでオープンキャンパスを開催した。昨年度は見送った7月のオープンキャンパスも『体験実習』ではなく『見学』にすることで開催した。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響で2年間開催することの出来なかったイタリア研修も今年度はリモートを利用し、大阪市経済戦略局と連携し『KOGEI ITALIAN REMOTE TOUR 2021』として、一般も参加できる新しい企画として開催し、姉妹校であるブレラ国立芸術高等学校と旧交を温めることができた。

オープンキャンパスでは毎回300名を超える参加で、（申込者数 7月号377名、9月号491名、11月号414名、12月号300名）中学生とその保護者が工芸高校の教育に興味を持っていることがうかがえる。学校外での学校説明会6回、中学校への出前授業4回を行い、工芸高校のデザイン・美術の専門教育を広く知ってもらえるようPR活動を行った。各イベントの参加者アンケートで進路選択の参考になったかの質問に「参考になった」の回答は平均で85%、そのうち60%が「進学したいと思った」と回答した。工芸高校展はオミクロン株が流行した為、一般の見学を中止とした。

#### 取組内容⑪（図書）

・3月7日までの統計で生徒利用者数3120人、貸出冊数2662冊。開こう！好奇心の扉！（図書館の本を使った教員による講習会）・オーサービジット（本の著者の講演会）図書館キャンペーンなどの実施により本に対する多面的な興味付けができ、入館者一人当たりの貸出冊数は増えた。しかし昨年同様、感染症の影響もあり1クラス40人での授業利用ができなかったり入館人数が制限されることもあり利用者数は伸び悩んだ。

・課題図書を取りそろえた、読書感想文コンクールは希望者から募ったので応募者数は少なかったが、入選2人、入賞1人を輩出して(27分の3)好成績であった。読書感想画コンクールは授業で2クラス取り組み前年度の倍の応募者数、入賞者6人(7分の6)を輩出して大変好成績であった。内1名は全国4位で「優良賞」を受賞した。

・文化系クラブとの連携を推進したり生徒図書委員会の活性化として展示ケースのディスプレイを行なった。

#### 次年度への改善点

- ① 髪型服装違反者の減少と、検査日以外でのネクタイ・校章・科章の着用率の向上をめざす。
  - ② 効果的な遅刻指導により遅刻件数の減少をめざす。
  - ③ 生活指導部・科・学年・担任で生徒情報の共有を図り、連携協力する。
  - ④ 交通事故ゼロをめざす。SNS関係のトラブルゼロをめざす。
  - ⑤ 来年度も新型コロナウイルスの影響があると思われるが、2回以上の防災避難訓練や安全教育、講話等を計画し実施していきたい。コロナ禍での自然災害への対応を含め、さらなる安全教育の内容の検討と生徒への啓発を行いたい。
  - ⑥ 昨年度同様に1学年リモートでの実施となったが、昨年度の経験を生かし、事前準備やリモート環境の整備を行い随分改善された。来年度は全学年同じ条件での参加が一番望ましいが、リモートも含め講演会の実施方法を、情勢を見ながら検討していくべきである。
  - ⑦ 各学級担任や専門科と協力して保護者や本人のニーズを早い段階で把握するとともに、適切な合理的配慮の内容を保護者や関係者間で十分に確認する。
  - ⑧ より一層の校内美化に努め、校内美術館を目指していきたい。
  - ⑨ 今年度は、感染拡大の影響で説明会の実施形態などを変更したこともあり、例年通りの就職説明会を実施できなかった。来年度は実施方法などについて検討したい。
  - ⑩ オープンキャンパスの申し込みに関して、システムを変えたことによってより丁寧な連絡ができるようになった。しかし管理等の問題があり再検討が必要である。運営側としては準備のために参加者数の把握が必要なので、参加人数が把握できること、何かがあった際に速やかに連絡が取れる(追跡ができること)態勢を整えておく。国際交流に関して新しい交流の形も生まれたので、より良い方法を今後も継続して検討していきたい。
  - ⑪ 感染症対策として全購入図書にブックカバー(消毒可能)がかけられるよう消耗品費を確保してもらいたい。
- ・大阪府移管に際し、来年度中に図書システムの変更予定。

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが、目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <p>(1) 自主学習アンケートを実施し、生徒自身に自らの学習の取り組みを客観的に把握させ、自主的に学習に取り組めるように支援する。</p> <p>(2) ICT活用力や情報教育指導力の向上を図るため、校内設備の整備および教員研修を行う。</p> <p>(3) 各教科の授業で学習成果発表や作品発表・合評等に取り組み、コミュニケーション力、自己表現力に加え、社会性を兼ね備えた人材の育成に努める。</p> <p>(4) 特別な配慮や支援を要する生徒について、教職員で情報共有を深め、個々の生徒に応じた合理的配慮を実現する。</p> <p>(5) 健康な生活習慣の確立のために、各種健診で再受診が必要な生徒への受診勧告を迅速に行い、担任との連携を密にした粘り強い受診指導を実施する。</p> <p>(6) 校内の事故防止対策の一環として熱中症予防対策並びに応急処置講習を実施する。また、薬物乱用防止講習を開催し、生徒の意識啓発に努める。</p> <p>(7) 本校の教育の特色であるデザイン及び芸術の専門性を深化させるための教育をとおり、造形、デザイン分野への進路を希望する生徒を支援するとともに、全生徒が自己実現できる進路指導に努める。</p> <p>(8) 各学科におけるアドミッションポリシーから、めざすべき生徒像の育成を行うために取り組むべき学習内容の構築と研究に努め、先鋭的な取り組みを実現させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【施策5 子供一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>生徒自身に自らの学習の取り組みを客観的に把握させ、自己の時間管理等について考えさせる。自主学習の習慣をつける支援として、放課後や休業日等に自主学習できる場所を確保するなど、環境づくりに努める。学習状況等に関するアンケートを実施する。</p>	B
<p>指標 学校設備を利用できる日数や時間を増やし、学習時間を捻出し自らの時間管理等の変化について改善させ、自主的な学習時間の増加を図る。</p>	
<p>取組内容②【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>教員のICT活用力や情報教育指導力の向上のため、教科を越えた研修会等を実施する。情報端末及びデジタル教材のインフラ整備を積極的に行い、教員一人ひとりの授業力の向上を図るとともに、主体的・対話的で深い学びに取り組み、生徒の学習意欲の向上を図る。またICTを活用することで成績処理等を円滑に行い、業務の効率化を図り、教材研究等の時間を確保する。中学生及び中学生の保護者向けオープンキャンパスを在校生の保護者にも公開し、また教員間相互の授業参観を行うことで教員の授業力向上につなげる。生徒や保護者へのアンケートを実施し、改善に努める。</p>	B
<p>指標 ・教員研修を実施し、ICT活用等による授業改善や業務の効率化に取り組む。 ・公開授業をとおり、教員の授業力向上を図るため、参観者の増加をめざす。</p>	
<p>取組内容③【施策5 子供一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>各教科で学習成果発表や作品発表、合評などに取り組み、互いの能力を認め合うことで表現力の幅を広げ、自己表現力の向上をめざす。特に専門教科では主要单元ごとに生徒が学習成果を発表する機会を設け、教員からの助言だけでなく、生徒相互の意見交換を行うことで自己表現力を高める。</p>	B

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種コンクールや展覧会への各学科出展数の前年度比増をめざす。</li> <li>・資格試験の合格者率について、前年度比増をめざす。</li> </ul>	
<p>取組内容④【施策5 子供一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>配慮や支援を要する生徒について、ケース会議等を通じて教職員間の情報共有を深め個々の生徒に応じた合理的配慮を提供する。配慮の内容や具体的な指導の方策を評価し、再検討を進めることで学習状況等の改善を図る。また、個別の指導計画作成の方法や指導法のスキルアップ、さらに教育のユニバーサルデザイン化をめざした教員の研修を行う。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケース会議を3回以上開催し情報共有を行うとともに、個々の生徒に応じた具体的配慮を提供する。</li> <li>・個別の支援計画書と個別の指導計画書を作成し保護者と確認する。</li> <li>・障がい理解やソーシャルスキルトレーニングに関する教員研修を年1回以上実施する。</li> </ul>	
<p>取組内容⑤【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>各種検診、保健指導、健康相談を行う。</p> <p>スクールカウンセラー、コーディネーター、担任と連携しながら心の問題に取り組む。</p>	C
<p>指標 保健指導や健康相談を実施し、各種検診の再受診率を40%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑥【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>生徒自身が心身の健康状態を正しく把握し、対応していける能力をつけるため、ほけんだよりや掲示物を活用し、啓発していく。</p>	B
<p>指標 「ほけんだより」や「掲示物」の作成を5回以上行い、心身の健康に対する意識の向上を促進する。</p>	
<p>取組内容⑦【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>1年生対象に薬物乱用防止講習を開催し、意識啓発に努める。</p>	B
<p>指標 講習会後のアンケート結果で「理解ができた」の割合70%をめざす。</p>	
<p>取組内容⑧【施策5 子供一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>就職希望者を対象に面接指導や外部講師によるマナー講話、内定者講習を実施し、社会人としての基本的マナーだけではなく、協調性や社会性を身につけコミュニケーション力の向上に努める。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・面接指導や、マナー講話、内定者講習を年間4回以上（前年度9回）実施する。</li> <li>・参加者へのアンケートを実施し、「役に立った」という回答の割合70%以上をめざす。</li> </ul>	
<p>取組内容⑨【施策5 子供一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>デッサンコンクールとその後外部講師による作品講評会を実施することで進学・就職に必要な実技のスキルを習得させる。その際には振り返りシートを記入させ、基礎造形力の向上の一助とする。また、入学試験に応じた面接指導を行い進路意識の向上を図る。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デッサンコンクールを放課後または土曜日を利用し年間4回程度実施する。</li> <li>・大学等より講師を招いての講評会を3回以上実施する。</li> <li>・入試制度の応じた期間に面接指導を年間6回程度行う。</li> </ul>	
<p>取組内容⑩【施策5 子供一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>1、2年生を対象に大学等と連携ワークショップを実施し、大学等への理解を深めさせる。振り返りシートを記入させ、視野を広げたり、専門性を高めたりすることの必要性を確認させることで進路意識の向上を図る。1、2年生の公務員志望者に対して説明会を実施し、専門学校等が開催する無料講習会、模擬試験などへの参加を積極的に促すなど早期から対策を行う。</p>	B
<p>指標 大学等と連携ワークショップを年間2回以上実施し、各回20人以上の参加をめざす。</p>	
<p>取組内容⑪</p> <p>【施策5 子供一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（ビジュアルデザイン科）</p> <p>ビジュアルデザインについて実際のデザイン事例を踏まえて理解するために、現役デザイナーや大学の講師による連携授業を実施する。</p>	B

<p>関連する技能を身につけるため、画材メーカーのワークショップやシルクスクリーン印刷など、手を動かして理解していく授業を展開していく。 身につけた知識や技能を活かして、検定試験やコンクールへ挑戦する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別講師を招いた授業後にアンケートを実施し、「今後の制作に活かすことができる」という項目に対して90%以上の回答をめざす。</li> <li>・ビジュアルデザイン科の特性を活かした作品作りに励み、全員が何らかのコンクールへ応募することをめざす。</li> <li>・グラフィックデザイン検定2級の取得者を科全体の中で90%（前年度84%）をめざし、コンクールの入賞点数においては昨年度（59点）以上をめざす。</li> </ul>	
<p>取組内容⑫【施策5 子供一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（映像デザイン科） 教育連携校である同志社女子大学による出張講義をはじめ、大阪大学知的財産センターによる知財創造教育や専門学校の出前授業など高大・高専連携授業を行い、より高度な映像制作に関する必要な知識と技術を学ぶ機会を作る。 施設設備の整理を行い、デジタル化に対応した実習カリキュラムの作成と課題設定を行う</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各講習会後のアンケートの「今後の制作に役立つ」の回答が70%以上（前年度実績82%）をめざす。</li> <li>・昨年度導入された映像配信機材を活用し、産業と連携したプロジェクトを実施し実践的な作品制作を行う。</li> </ul>	B
<p>取組内容⑬【施策5 子供一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（プロダクトデザイン科） 身近な生活用品などのデザインに対して問題意識を持ち、ものづくりの基礎として手作業で行うクラフト的な実習とCADソフトや3Dプリンター、レーザー加工機などの先端機器を駆使した実習を通じて企画力・想像力に富む実践的なものづくりに対する知識や技能を養う。 自動車メーカーなどから外部講師を招き、デザインスケッチやモデリングなどの特別授業などを行うことにより、より実践的な技術や知識を得る機会を設ける。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種コンクール等へ出品するよう積極的な参加を促し、プロダクトデザイン科の生徒全体の80%の出品をめざす。</li> <li>・外部講師を招いた特別授業を年10日以上実施し、自己実現を図るキャリア教育を充実させる。</li> </ul>	B
<p>取組内容⑭【施策5 子供一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（インテリアデザイン科） インテリアデザイン分野に関する知識や技術の向上をめざして自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む姿勢を養う。支援学校や幼稚園と交流授業を行い、地域社会の貢献に繋げるとともに、ものづくりやデザインの現場で活用することができる実践的な教育内容の充実を図る。</p> <p>指標</p> <p>交流授業や外部講師の講演、校外学習などを年3回以上実施し、アンケートで「授業に前向きに取り組むことができた。」という項目に対して70%以上（前年度70%）の回答をめざす。</p>	B
<p>取組内容⑮【施策5 子供一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（建築デザイン科） 建築分野に関する基礎的な知識や技能を身につけ、それらに応用し、主体的に学び、取り組む姿勢を養う。急速にICT化が進む建築業界においてそれを支える人材育成を行うため、BIMや3Dプリンター等を利用した実習教育を充実させ、各種コンクールや関連資格・検定試験に挑戦させる。変化の著しい現代の社会問題について建築デザインを通して改善するための創造的な思考力・判断力・表現力を養う教育を充実させる。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の発達段階に応じた体験学習や施設見学、講師を招いた講義を2回以上行う。</li> <li>・コンペ参加作品の内、3DCADを利用したものを全体の50%以上にする。3DCADを用いた作品でコンクール入賞をめざす。建築関連の資格受験を推進する。</li> <li>・ICTを活用した授業を増やし、画像・動画を活用した授業でもって授業の理解度・満足度が生徒全体の70%以上が「満足した」と調査で回答することを目指す。</li> <li>・各種建築系提案型コンクールに生徒の75%以上（前年度90%）の参加をめざす。</li> <li>・各実習科目において年1回以上の講評会を行い、生徒の作品作りへの意欲を高める。</li> </ul>	C

<p>取組内容⑩【施策5 子供一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（美術科）</p> <p>美術に関する専門的な学習によって身に着けた、造形的な見方・考え方を主体的に繰り返し学ぶ環境を整備し、総合的・実践的な力として身に着けさせる。また、感性を磨き、美的体験を充実させるため見学の機会や体験型学習の機会の充実を図り、創造的な思考力・判断力・表現力の視野を広げる。作品ポートフォリオの作成により自ら学習のふりかえりを行い進路実現につなげていく環境の整備と機会を整備する。</p>	B
<p>指標 各実習科目において月一回以上の合評を行う。さらに、授業外（学年を越えたかたち）での実技勉強会、体験型学習を特別授業期間や長期休業期間等の70%以上（前年度75%）で実施し、課題ごとに合評を行う。1、2年生は作品の記録のデータ化を課題ごとに行う。3年生は全員が作品ポートフォリオを制作する。その過程で自らの学習の振り返りを学期ごとに行う。</p>	

目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

<p>（年度末反省）</p> <p>取組内容①（教務）</p> <p>今年度も生徒に自らの学習の取り組みや時間管理等について考えさせるため、3学期に学習状況アンケートを実施した。2学期に新型コロナウイルスの感染不安を理由に登校できていない生徒に対して、各教科で授業内容をホームページで見られるようにして、自主的な学習時間の増加を図った。</p> <p>取組内容②（教務）</p> <p>残念ながら、新型コロナウイルスの影響で今年度は保護者への公開授業を実施することが難しい状況になってしまった。また、ICT活用に関しては機材等も十分な環境ではなかったが可能な範囲で試行した。生徒への授業アンケートを行い、教員の授業力の向上を図った。</p> <p>取組内容③（教務）</p> <p>コロナ禍の中、校外での活動等が難しい状況であったが、例年通り各教科・学科において、主要単元や課題ごとの作品発表だけでなく、自己の考え方や取り組み方法を発表する機会を設け、互いの意見を聞き、自己表現力を向上させることができた。指標である出展数と合格率に関しては各専門科の指導により、ほぼ達成することができた。</p> <p>取組内容④（支援）</p> <p>ケース会議を1学期に各学年1回ずつその他に4回開催し情報共有を行った。該当生徒4名について個別の支援計画書と個別の指導計画書を作成し学級担任を通じて保護者に確認した。高校での合理的配慮等に関する教員研修を7月に実施した。また今年度は心理的に不安定な生徒も例年以上に多く学級担任と連携して必要な配慮を行った。</p> <p>取組内容⑤（健教）</p> <p>再受診勧告・再々受診勧告をおこなったが、なかなか受診率が上がらなかった。コロナ禍が影響しているのかもしれない。各種検診の再受診率は平均37%でした。</p> <p>（聴力100%、内科67%、尿検査60%、視力37%、歯科37%、眼科25%、耳鼻科0%）</p> <p>取組内容⑥（健教）</p> <p>保健委員が輪番で「ほけんだより」を担当し、健康意識（心や身体）を高める記事を書いてくれました。</p> <p>取組内容⑦（健教）</p> <p>薬物乱用防止について、意識を高めることができた。加えて、エナジードリンク（カフェイン）についても危険性があることを認識させることができた。アフターピルについても情報提供できた。</p> <p>取組内容⑧（進路）</p> <p>3年生を対象に、マナー講話1回、就職説明会や就職面接指導を計7回、内定者講習を計2回実施した。各講習それぞれ生徒の満足度も高く、就職一次内定率も昨年度より上がった。</p> <p>取組内容⑨（進路）</p> <p>デッサンコンクールを6月(103名)7月(84名)10月(21名※3年のみ)12月(37名※1・2年のみ)に実施し、実技のスキル習得の機会を設けた。また、各科と協力して9月から11月の間で、志望校の受験に対応した進学面接指導を行った。昨年度よりも、総合型及び学校推薦型の入試では国公立大学の合格者が増えた。</p> <p>取組内容⑩（進路）</p>
---

10月には1・2年生を対象に公務員志望者説明会、2月には2年生対象の就職説明会、3月には大阪芸術大学との連携ワークショップを実施した。

#### 取組内容⑪ (ビジュアルデザイン科)

校長経営戦略予算を活用し、外部講師を招いた特別授業「広告を批評しよう」を実施した。アンケートでは「今後の制作に役立つ内容であった」との回答が、100% (前年度100%) 得られた。また画材研究やシルクスクリーン印刷などを通して、技術力や表現力を身につけ、コンクールへは科全体で250作品を出品し、毎日DAS学生デザイン賞で銀の卵賞・部門賞、愛鳥週間で府知事賞、選挙推進ポスターで最優秀賞などの入賞結果を残している(計73作品)。グラフィックデザイン検定では受検者43人中、39人が2級を取得した。(合格率90%)

#### 取組内容⑫ (映像デザイン科)

同志社女子大学高橋准教授によるリモート講義で実施した。大阪大学知的財産センター・NHKによる知的財産権の講義を実施した。宝塚大学渡辺教授による講義とワークショップ、THE MARTIN lab 水島氏による講義を実施した。受講生徒からは概ね好評で90%以上の生徒が「今後の制作に役立つ」と回答している。昨年度導入された映像配信機材を映像制作の実習課題に導入し作品制作を行っている。また授業以外にも新入生歓迎会のリモート中継や成人の日記念の集い視聴メッセージビデオの制作に取り組み、実践的な映像制作として生徒有志に技術指導の機会を設けることができた。

#### 取組内容⑬ (プロダクトデザイン科)

今年度は、各種コンクールにて、「大阪成蹊全国アート&デザインコンペティション」銀賞・銅賞受賞・入選3件、「美術工芸甲子園」優秀賞受賞、「国際コインコンペティション」審査員特別賞受賞、「毎日DAS学生デザイン賞」佳作受賞・入選3件などで入賞を果たした。また、コンクールや展覧会へ延べ260点[130点]を出品することができた。

新型コロナウイルス感染症の影響で規模は縮小または中止された特別授業もあったが、「大阪成蹊大学との高大連携授業」や「知財教育」に外部講師を招いて特別授業を行った。12月には「錫を使ったお皿の制作」の講習会を実施した。

#### 取組内容⑭ (インテリアデザイン科)

幼稚園3園との交流授業を1回ずつ、大学との連携授業を1回実施した。支援学校と幼稚園には授業で制作に取り組んだ教具を贈呈することができた。授業アンケートでは「授業に前向きに取り組むことができた。」という項目に対して96%の回答を得ることができた。また建築のデザインコンクールで入賞、毎日DAS学生デザイン賞で部門賞受賞、入選した。検定試験ではインテリアデザイン技能検定に7名、基礎製図検定に11名、グラフィックデザイン検定2級に7名が合格した。

#### 取組内容⑮ (建築デザイン科)

・コロナ禍のため校外見学は実現できなかった。外部講師を招いての授業は、1回のみ行われた。急な学級閉鎖が重なり、予定していた回数はできなかった。

・生徒らがコンペに取り組むにあたり3DCADを何らかの形で活用した作品がほぼ全員にみられた。また、第66回工高生デザインコンクールにて1作品が入賞した。基礎製図検定は今年度より希望者のみの受験とした。受験者数は20名、合格者は10名と合格率50%と、合格率が昨年度より大幅にアップした。建築施工管理技士2級は、今年度15名の受験者がいた。建築士試験に関しては、卒業後の試験のため受験・合格者数把握が難しいが、今年度より3年生向けに対策講座を授業内に取り入れ、14名が参加した。今後も資格取得を薦める動きをしていく。

・各種建築系提案型コンクールへの参加生徒は80%であった。その図面プレゼンテーションのほぼ全てが3DCADを使用したものである。さらに生徒の参加を促していく。

講評会については、休校が続き授業時間数に余裕が持たず、ほぼ実現ができなかった。3年生の課題研究の中間発表のみに終わったが、次年度当初に持ち越し、今年度完成した作品に対し講評を行う予定である。

・校長戦略予算によりプロジェクターを購入し、座学でのICTの活用を行った。年度末アンケートを行った結果、生徒の授業への満足度は5段階中4.0以上であり、「カラーの写真・動画が見れるのがいい」「テンポよく授業がすすめた」「文字がきれいで見やすい」との評価を受けた。

#### 取組内容⑯ (美術科)

2, 3年生は各授業とも課題の節目ごとに合評を行った。校長戦略予算で整備したプロジェクターや書

画カメラを利用して多様な形態での合評が実施できる環境が整備された。授業外の学ぶ場として指標の期間の82%での実技勉強会、体験型学習を実施し、3年生は進路対策を中心に4月より27名でスタートし、3月8日現在まで年間194日実技勉強会を実施し進路決定をサポートした。1, 2年生には休業中の陶芸や絵画技法などの体験型講座を数多く行い1年生36名2年生29名がエントリーし毎日15名以上が登校していた。個々での作品も含めてポートフォリオの内容も多様で充実したものとなった。

#### 次年度への改善点

- ①学習状況アンケートの各設問から学習時間とスマートフォン等の情報端末の使用時間、就寝時間と使用時間、読書習慣と学習時間等の相関関係の考察を踏まえ、今後も学習時間の確保、自主学習の習慣、環境づくりを各分掌や学級・学年・専門科と連携して進める。来年度は府立に移管するので、改めてアンケート方法も検討し、実施する。そして、結果を分析し傾向を探り考察を深めていきたい。
- ②府立移管によって、学校のインフラ整備が進められ、ICT活用環境を整えている。今後は全教員への周知と研修を図り、授業改善や業務の効率化を進めていきたい。機器の整備や教員の機器操作スキルの向上、教科指導のための準備時間の確保や教員の更なる資質向上、授業力向上をめざす。
- ③来年度も多くの場合で厳しい状況になると思われるが、例年通りコンクールや展覧会への出品をはじめ、資格取得検定等に積極的に取り組み、生徒の知識・技術の向上をサポートしていきたい。作品制作や発表の場等については、状況を見て可能な範囲で地域や外部の団体等と連携を探っていきたい。今後も、高いコミュニケーション能力を持ち、社会の流れやニーズを敏感に感じ取ることのできる人材育成に努める。
- ④要配慮生徒一覧に配慮内容をより明確に提示し、記録、結果確認等がスムーズにできるようにする。校内研修を通じて配慮の具体的方策についてわかりやすく提示できるようにする。
- ⑤次年度は一斉に受診勧告をせずに、個々に手渡しでおこなうことにより、受診率を高めていきたい。
- ⑥誤字脱字をできるだけなくしていけるように指導していきたい。
- ⑦講演内の寸劇の音声が届くように機材の点検、リハーサルを入念におこなう。
- ⑧就職希望者の講習会については今年度並みの回数を維持し、内容をさらに良いものになるようにしたい。
- ⑨デザインコンクールについては、特に2学期以降実施分で参加者を増やせるようにしたい。
- ⑩感染症の状況にもよるが、大学や企業などと連携した講習などを積極的に実施したい。
- ⑪今年度の特別授業は例年より回数を増やしたことで、理解度は深まったと感じた。次年度も回数を維持して続けたい。コンクールに関しても引き続き、新規のコンクール等に挑戦するなど積極的に取り組んでいく。検定については合格率が上がるように事前指導に力を入れて取り組む。
- ⑫高大・高専連携授業を次年度も実施する。授業と合わせて成果が得られるように効果的な時期や実施方法を考え計画を立てる。また映像撮影技術や編集技術の向上を図り、より実践的な作品制作を行わせたい。
- ⑬生徒のモチベーションをあげるためにもコンクール等への参加を促していくとともに、さらなる入賞者の増加を図ることのできるような授業展開を考えていく。  
外部講師を招いての事業に関しては年度当初より計画をしっかりと立てておく。
- ⑭外部講師の講演や講習、交流授業においては、制限がある中でも授業と合わせて成果が得られるように、効果的な実施方法を考え計画を立てる。
- ⑮今年度の状況により、外部見学は行われなかったため、来年度は感染対策をしっかりと行った上で行いたい。学部講師を招いた講評を予定していたが、実現しなかったため、来年度当初に考えている。その他の実習などでの講評会についても、休校処置が緩和されたので、来年度は実現できるかと考えている。
- ⑯引き続き外部の見学には制約があり、見学会は2学期に1度しか実施できなかったが次年度に向けた計画はすでに作成している。合評において途中経過や資料を生徒、教員が双方向で提示し合い、他の生徒が完成作品以外も共有できる環境を整備する。